

今、改めてアートセンターを考える。

vol. 2

ラーニングセンターというかたち

八戸市新美術館構想について

2018年2月18日（日）

14:00-16:30

アートラボあいち

定員：60名（参加無料・申込不要・当日先着順）

ゲスト：西澤徹夫（建築家／西澤徹夫建築事務所主宰）

浅子佳英（建築家／タカバンスタジオ主宰）

森 純平（建築家／東京藝術大学建築科助教、
PARADISE AIR ディレクター）

大澤苑美（八戸まちづくり文化スポーツ観光部
芸術環境創造専門員）

モデレーター：服部浩之

（キュレーター／アートラボあいちディレクター）

2020年以降に新たに誕生する八戸市新美術館は、まちと芸術文化を育てるファーム「八戸ラーニングセンター」というコンセプトを打ち立てた西澤徹夫、浅子佳英、森 純平の3名の建築家の共同による設計提案が最優秀賞に選出され、注目を集めています。

現在、設立準備中の新しい美術館は、どのようなプロセスを経て、どんなかたちのものが生まれようとしているのか、設計者3名と、八戸市の担当者にお話を伺います。

「エデュケーション」ではなく、「ラーニング」に込められた意図や、それを建築空間としてどのように実現していくのか、建築というハードとアート・プログラムというソフトの関係などにも言及しながら、新たな学びと創造の場のあり方について考えます。

<構成>

- 14:00 はじまり
- 14:15 プレゼンテーション1 「八戸市新美術館構想について」
- 14:45 プレゼンテーション2 「八戸市の取り組みについて」
- 15:15 休憩
- 15:30 ゲスト全員によるディスカッション
- 16:20 質疑応答
- 16:30 おわり

<ゲスト>

西澤徹夫 Nishizawa Tetsuo

[略歴]

2000年に東京藝術大学美術学部美術研究科建築専攻修了。2000-05年 青木淳建築計画事務所、2007年より西澤徹夫建築事務所主宰。「ビデオを待ちながら」(2009)、「パウル・クレー展」(2011)、「Re:play展」(2015) (いずれも東京国立近代美術館)などの展覧会会場構成、東京国立近代美術館所蔵品ギャラリーリニューアル(2011)、京都市美術館再整備工事(2015年-)など美術館設計に携わる。

森 純平 Mori Junpei

[略歴]

東京藝術大学建築科大学院修了。2013年より千葉県松戸を拠点に、アーティスト・イン・レジデンス「PARADISE AIR」を設立。今まで100組以上のアーティストが街に滞在している。2017年より東京藝術大学美術学部建築科助教、主な活動に遠野オフキャンパス(2015-)など。

浅子佳英 Asako Yoshihide

[略歴]

建築家、デザイナー。2010年東浩紀と共にコンテクスチュアズ設立、2012年退社。作品=《gray》(2015)、「八戸市新美術館設計案」(共同設計=西澤徹夫)ほか。著書に『これからの「カッコよさ」の話をしよう』(共著、角川書店、2015)、『TOKYO インテリアツアー』(共著、LIXIL出版、2016)、『B面がA面にかわるとき [増補版]』(共著、鹿島出版会、2016)ほか。

大澤苑美 Osawa Sonomi

[略歴]

東京藝術大学音楽環境創造科大学院修了。2004-06年「取手アートプロジェクト(茨城県取手市)」運営スタッフ。2008-11年(財)地域創造で勤務。2011年4月より現職。コンテンポラリーダンスを軸に地域資源や人を巻き込んで行う「南郷アートプロジェクト」、八戸の工場とアートを組み合わせる「八戸工場大学」等のアートプロジェクトの企画運営を担当するほか、八戸市新美術館準備など八戸市の文化行政に携わる。